

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

3
MARCH 2018



Don't worry!
Be happy!
心配しないで
楽しみましょう！

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2018 3

発行・編集 ■大津市・総務課
〒869-1292 熊本市若菜地区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096 (293) 3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

2100 印刷 ■ホーテ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物性インクを使っています。

英語教育が変わる
世界の入口 外国語が教科に

clozu-up
Ozu-jin
クローズアップ 大津人



◀「宝物」として見せてくれたのは集めているサイン色紙の一部。
卒業生が卒業に合わせてお世話になった「売店のおじちゃん、おばちゃんへ」と持ってきてくれたものや、社会人になって近況報告として持ってきたもの、記念にもらったものなど、その数46年間分。
▼夫婦で営む売店ではいつでも生徒たちを二人の優しい笑顔で迎え入れてくれる



「46年間支えてくれた地域の皆さんに感謝」

まえ だ あきひろ しずこ
前田 昭弘さんと静子さん（室）

1万数千人の大津高生の卒業を祝い、今年3月に退職する「売店のおじちゃん、おばちゃん」こと前田昭弘さん、静子さん夫婦をクローズアップする。

昭弘さんが大津高校の売店で働き始めたのは30歳の時。父の大工業の手伝いで、大津高校の旧校舎最後の改修工事をしていて、大津高校の木に飛び込んだのが校門前のイチヨウの木にかかると「売店販売員募集」の看板。飛びつくように応募した。以来、学校開校日の午前6時30分から午後5時まで、一日も休むことなく生徒たちを見守り続け、46年。体力づくりのために続けている散歩のおかげで皆勤賞。昭弘さんのひそかな自慢だ。

「売店を始めた時の3年生は今年65歳。本当に歴史を感じます」と昭弘さんがボツリ。

時には学生の話相手になりながら、菓子パン、惣菜パン、文具などを売ってきた。売店に入ったりする顔も毎年変わり、ドラマのように刺激的な1年が四季と共に過ぎていく。

昭弘さんが「サプライズ再会」と呼ぶ、卒業生たちとの学校内外での再会。当時を思い出し、人間的に成長している彼らを見て記憶とつながった瞬間。驚きと喜びに震える。

1万数千人以上の大津高生を夢を見守り、見送ってきた。全国に広がったそのつながりは「まるで監視カメラのようだ」と昭弘さん。

「福岡に行っても、東京に行った時でも、ぼったり再会。遠くから見ても連絡くれたりする人もいて」と静子さんも笑顔。

「3月末にはこの仕事も終わります。長い年月支えてくれた地域の皆さんに感謝しながら過ごしています。5年後はいよいよ大高（大津高校の略称）は創立100周年を迎えます。これからも大きく高いレベルで進化していくと信じています」と強い母校愛をにじませ、「退職後は共に勤め上げた妻を連れて旅行を楽しみたいなあ」としみじみと語る昭弘さん。

移りゆく季節を眺めた売店の窓の外から今日も生徒たちの明るい声。満足そうな表情を浮かべる2人の姿は子の未来を思う親の姿と重なった。

からいもくん便り

大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください（スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信）。

▼「大津高出身の1万数千人全員がその人を知っている。大津高校と言ったらこの人」と紹介され、取材した前田さん夫婦▼「再会したときは当時の姿に変わるんだよね」と再会の感動を表現した言葉に、昔見た映画のシーンを思い出しました▼

「卒業生に会うたびにその人が人間的にどんなに成長していく姿を見られるのがうれしい」という昭弘さんの言葉。覚えていてもらえる、思ってもらえるだけでそれはなにものにも代えられない宝だと感じました（VIDEO）

つづきの声